

ビジネスとカード会員を守る ペイメントセキュリティ

VISA

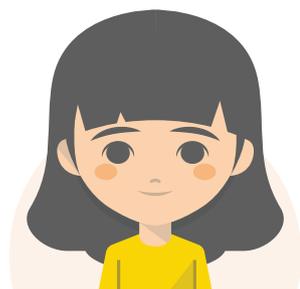
カードの不正利用に 不安があるカード利用者

Visaの委託を受け、2015年に株式会社マクロミルが実施した調査では

91.2%



のカード利用者がカード番号盗難や本人なりすましによるカードの不正利用などカードのセキュリティについて心配だと回答しました。



94.1%

女性



88.3%

男性



96.9%

女性20代



82.8%

男性50代

男性よりも**女性**のほうがカードのセキュリティについてより不安を感じている。

女性20代が最も不安を抱えており、**男性50代**が相対的に不安に思う割合が少ない結果でした。



年代別に見ると**20代**のカード利用者がカードのセキュリティについて最も心配しています。

カード会員の本人確認を求めることが カード利用者の安心感につながる

調査ではカード利用時に店頭またはネットショッピングで本人確認を求められた経験について尋ねました。本人確認を求められた経験のあるカード利用者の多くは、「安心感が増した」と回答しています。



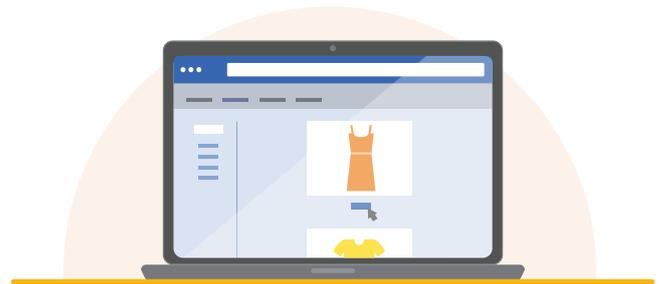
店頭での買い物時のセキュリティ

店頭での買い物時にカードで支払った経験のある388名に尋ねたところ、多くは本人確認を求められた経験があると回答しました。「自分のサイン」は**94%**、「暗証番号」は**86%**という結果でした。

消費者の本人確認を受けた時の気持ち：

32% セキュリティに気を遣っている店だと感じた

31% 安心感が増した



ネットショッピング時のセキュリティ

ネットショッピング時にカードで支払った経験のある430名に尋ねたところ、**29%**が3-Dセキュアでの本人確認を、**67%**がセキュリティコードでの本人確認を求められたことがあると回答しました。

消費者の本人確認を受けた時の気持ち：

47% セキュリティに気を遣っている店だと感じた

44% 安心感が増した

ビジネスとカード会員を守るVisaのセキュリティ施策



PCI DSSによるデータ保護

PCI DSS (Payment Card Industry Data Security Standard、ペイメントカード業界データセキュリティ基準)は、カード会員情報を取り扱い、保管し、電送する全ての企業が、安心・安全な環境で取引を行うための要件となっています。

不正の発生を抑止

ICカードは店頭でのICカード対応端末利用の際にユニークなワンタイムコードを生成します。そのため、**カード偽造を現実不可能にし**、店頭での不正を削減します。ICカードはカード会員とお店のビジネスの双方を保護する役割を果たしています。



本人確認で安心・安全なカード利用
ネットショッピング時には、カード会員本人の利用であることを確認するため、**CVV2と呼ばれる3桁のセキュリティコードの入力**、または**3-Dセキュアのパスワード**を求められます。店頭での買い物時には、本人確認を**暗証番号の入力**で行います。